

平成16年2月25日



平成16年1月 マンスリー レポート

集計企業数 60 社

売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	34,090,824 万円	100.0%	102.1%(100.5%)	32,106,329 万円	97.9%(96.8%)
食 料 品	26,443,337 万円	77.6%(77.8%)	102.3%(100.5%)	24,987,060 万円	98.0%(96.8%)
農 産	3,797,420 万円	11.1%(10.2%)	98.7%(93.0%)	3,590,698 万円	94.6%(89.5%)
水 産	3,433,317 万円	10.2%(10.2%)	99.4%(97.5%)	3,241,918 万円	95.2%(94.0%)
畜 産	3,039,244 万円	8.9%(9.2%)	98.5%(100.3%)	2,863,806 万円	94.2%(96.0%)
惣 菜	2,572,872 万円	7.5%(7.4%)	103.8%(101.7%)	2,414,912 万円	98.8%(97.3%)
日配食品	6,064,995 万円	17.8%(17.7%)	103.1%(101.9%)	5,733,128 万円	99.0%(98.1%)
加工食品	7,535,489 万円	22.1%(23.1%)	106.0%(104.3%)	7,142,598 万円	101.7%(100.8%)
生活関連	3,177,163 万円	9.3%(9.5%)	99.3%(98.4%)	3,023,217 万円	96.3%(95.5%)
衣 料 品	2,327,901 万円	6.8%(6.4%)	100.3%(99.9%)	2,214,675 万円	97.8%(97.7%)
そ の 他	2,142,423 万円	6.3%(6.2%)	107.5%(104.8%)	1,881,377 万円	99.8%(98.4%)

数 値

全店総売上高	34,090,824 万円	店 舗 数	3,260 店舗
総売場面積	5,645,567.3 m ²	総従業員数	166,158 人

店舗平均月商	10,457.3 万円	平均客単価	2,039.6 円
月間m ² 売上(前月)	6.0 万円(7.0 万円)	平均店舗面積	1731.8 m ²
月間坪売上(前月)	20.0 万円(23.1 万円)	パート比率(前月)	74.9%(74.3%)

注) 総従業員数...パート・アルバイト数は、8時間換算しています

全体概況

- ・ 前年よりも土曜日が1日増。全国的に天候にも恵まれ、売上は昨年に届かなかったが、先月よりもかなり回復している
- ・ 特に後半気温が下がり、鍋物商材が好調に推移した
- ・ 元旦営業の定着などにより、客単価も回復基調にあるが、個店ごとの競合状況によっては、依然として厳しいところも多い
- ・ 前年から続く農産、水産部門の不調に加え、BSE、鳥インフルエンザにより、畜産部門も低調。生鮮3部門は非常に厳しい状態となっている

商品動向

農産

- ・ 農産部門は昨年までの極端な安値局面は脱し、回復傾向にあるが、いちごなどの旬の商材が品薄となっており、前年比は依然として厳しい
- ・ 気温の低下と、相場の回復に伴い、鍋物商材は好調に推移。ほぼ例年並の売上となった

水産

- ・ 気温の低下により、鍋物商材が好調。また、刺身の売上も好調に推移しており、売上は回復基調にある
- ・ えび・かに、塩干類に関しては苦戦が続いており、大きな売上増にはならなかった

畜産

- ・ BSE、鳥インフルエンザが相次いで発生し、豚肉を除いては非常に厳しい状態が続いている。今後もこの状態は続くことが予想される

惣菜

- ・ お弁当などの米飯は引き続き好調も、鳥インフルエンザの影響により、から揚げなどの鳥肉類が低調
- ・ BSE、鳥インフルエンザにより、今後原料の手配が難しくなる、という懸念がでている

日配・加工食品

- ・ 日配食品は、後半の気温の低下に伴い、練り物が好調に推移。また、こんにゃく、しらたきなどの鍋物商材も全般的に好調だった
- ・ たまごは、相場安と、鳥インフルエンザの影響もあり、売上は低調だった
- ・ 和菓子、菓子パン、ケーキなどのデザート関係は、SKUの拡大の効果もあって全般的に売上が増加傾向にある
- ・ 加工食品は、酒類販売店舗の増加により、酒類は軒並み好調。特に焼酎は前年から引き続き非常に好調
- ・ 菓子類は、新製品の売上が全体を牽引するかたちで、秋以降売上が伸びている
- ・ ココアは昨年のブームの影響から今年は苦戦している

その他

- ～年始の売上動向について
- ・ 全国的に天候に恵まれたこともあり、売上は全体的に好調だった
- ・ 気温が暖かかったため、寿司、刺身などが好調に推移。逆にすき焼き関連は低調だった
- ・ 元旦営業の定着化と、元旦営業店の増加の影響もあり、単価が昨年 of 年始に比べ下落している。売れる商品もベーシックなものに移行している
- ・ 各店舗ごとの立地条件、GMSなどとの競合条件などにより、同一企業でも大きくばらつきがでているため、好不調の報告も非常にばらついている
- ・ 年末の売上が年始に移行しているだけなので、トータルではプラスとならない、という声も聞かれる

～ B S E、鳥インフルエンザの影響について

アメリカでの B S E の影響について

- ・ T V などの影響もあり、発生直後より、じわじわと影響がでていいる。牛肉の昨年比では 7 0 ~ 9 5 % で、 9 0 % 前後の企業が多い
- ・ 構成比では、 1 ~ 4 % のダウン。平均では 2 % 前後落ちている
- ・ 輸入牛はアメリカ産に関係なく、全体的に販売不振
- ・ 国内産、オーストラリア産の相場が上昇しており、価格的に売りづらい状況となっている
- ・ このまま輸入停止が継続された場合、特に焼肉商材において値ごろ感のある商品が提供できなくなるという懸念がでている

鳥インフルエンザの影響について

- ・ 鶏肉の昨年比では 7 5 ~ 9 5 %、平均では 9 0 % 前後となっている
- ・ 構成比では 0 . 5 ~ 4 % のダウン。平均では 1 % 前後落ちている
- ・ 鶏肉全般の売上の他、鶏肉加工惣菜（ナゲットなど）への影響も大きい
- ・ 国内でも確認されたこともあり、国産、輸入問わず落ち込んでいる。県産地表示があるものについては健闘しているが、好調ではない
- ・ 人に感染したことが確認されてからは、たまごなどの売上にも影響がでている
- ・ 鳥インフルエンザについては、1 月中旬と 2 月に入ってから国内で確認されたこともあり、 2 月以降の影響のほうが大きくでてくるとい声が多い

畜産部門としての影響

- ・ 牛に関しては焼肉商材、鳥に関しては焼き鳥など、これからの行楽需要への影響が心配されている
- ・ 豚肉は、昨年比で 1 0 0 ~ 1 1 0 % と伸びているが、それに伴い相場も上昇しており、畜産部門としては、売上、利益ともに苦しい状況となっている
- ・ 報道の加熱による、お客様の過剰反応による買い控えもでているため、店内告知も、逆にお客様を刺激することにならないように苦慮している